

平成30年度木更津市市民活動支援センター運営協議会第1回協議会 議事録

○開催日時：平成30年8月8日（水）午後3時から午後5時まで

○開催場所：木更津市市民活動支援センター

○出席者氏名

協議会委員：白石哲也、湯谷賢太郎、川口正彦、鶴岡英樹、丸尾進三郎、
長谷川圭亮、佐藤恵美子、加納基成

指定管理者：川出信治、江澤茂典、齋藤和

木更津市：土居和幸、石井彰一、大岩房之、北見寛之、芝田雅人

【市民活動支援課：石井課長】

それでは、定刻となりましたので、平成30年度木更津市市民活動支援センター運営協議会第1回協議会を開催させていただきます。開会に際しまして、土居市民部長より挨拶をさせていただきます。よろしく願いいたします。

— 土居市民部長挨拶 —

【市民活動支援課：石井課長】

ありがとうございました。続きまして、市民活動支援センター運営協議会の会長でございます、白石会長よりご挨拶をお願いいたします。

— 白石会長挨拶 —

【市民活動支援課：石井課長】

ありがとうございました。以後の進行は木更津市市民活動支援センター管理運営規則第17条に基づき、白石会長に議長をお願いいたします。

【白石会長】

最初に、前回の平成29年度第2回協議会で課題として委員の皆様にご指摘いただきました検討事項について、市民活動支援課よりご報告をお願いいたします。

【市民活動支援課：大岩主幹】

— 資料1「平成29年度第2回協議会での検討事項について」のとおり報告

【白石会長】

ありがとうございました。以上の点につきまして、質疑はありますでしょうか。質疑はないようですので、続きまして、平成30年度事業計画についてお願いします。

【三幸株式会社：江澤センター長】

— 資料2「平成30年度事業計画について」のとおり報告

【白石会長】

ありがとうございました。以上の点につきまして、質疑はありますでしょうか。

【湯谷委員】

平成30年度も8月となりましたが、ここまでの実績を説明してください。

【三幸株式会社：江澤センター長】

利用者数につきましては、月2,000名の利用者数、相談件数は、毎月30件ほどあります。また、新規団体登録数も、これまで8団体ほどございます。会議室利用について稼働率もずっと30%でしたが、7月の稼働率は、50%くらいに上がってきております。

また、登録団体に対して、当施設を利用したか否かを平成29年4月に1回目の調査をさせていただいたところ、約20団体が利用しておりませんでした。同様の調査を平成30年4月に実施したところ、8団体に留まっており、活動調査や周知の方も順調にできていると考えております。

【川口委員】

指定管理業者として、これまで行ってきた自主事業等の成果を教えてください。

【三幸株式会社：江澤センター長】

平成29年度につきましては、市民と施設とをつなぐということで、施設利用者を増やすということを目標に取り組んできました。自主事業は少し集客が振るわなかったものの、施設利用者を増やすために、カフェコーナーを設置し、コーヒーを飲みながら施設を利用できるようにする等、利用者数を増やす工夫を行いました。

また、平成30年度につきましては、市民活動団体と地域メディア（かずさエフエムやジェイコム等）との交流を通じ、情報発信力の強化を図りたいと考え、それらをテーマとした団体交流会を開催いたしました。この交流会を行ったことで、一部の市民活動団体から「地域メディアと連携し、団体活動の周知につながった」という感謝の声が届いております。

【川口委員】

災害時の対応について、みらいラボの避難経路図を壁に貼ってあるが、誰が見てもわかるように、目立つようにしていただきたい。また、木更津でも先日大きな地震がありましたが、その時の利用者数と対応はどのようにしましたか。

【三幸株式会社：江澤センター長】

先日、震度4の地震がありましたが、その時、当施設には、フリースペースの利用者が10名ほどいらっしゃいました。地震が起きた時は、椅子の下に潜って身を守りました。

その際に、窓側の椅子の下に身を隠した利用者もいましたが、万が一、窓ガラスが割れると危険なので、窓から離れた場所へ誘導しました。避難行動については、職員一同、日頃より防災に対して意識をしておりますので、今回の様に実際に地震が起きても落ち着いた行動がとれたと考えています。

【市民活動支援課：大岩主幹】

避難経路図については、指定管理者と協議し、少しでも目立つように工夫する様、検討します。

【川口委員】

最近、高校生などの利用が多いと聞いている。市民活動をするために、みらいラボを使用するにはいいと思うが、単に学習の場としての利用であれば、フリースペースにも限界があると思うので、教育施設の利用もしてもらおう働きかけていただきたい。

【三幸株式会社：江澤センター長】

確かに、最近は、高校生の利用が多くなってきています。特にテスト期間になると高校生の利用が増えてきます。今では、スマートフォンを活用しながら学習する方法も流行っており、そうしたこともあってか、wi-fi環境が整っている当施設が学習する場として、利用しやすい環境だと考えられます。

また、7月21日にみなと口へ中央公民館が仮移転し、新たに中央公民館内に学習スペースが設けられましたので、勉強する方は、そちらへの案内もさせていただきます。

【長谷川委員】

他の市や市民活動団体などからの視察状況について教えてください。また、視察した方から、どのような感想があったかも教えてください。

【三幸株式会社：江澤センター長】

沖縄から来館された議員がいました。公民館のイメージだったが、それよりも広々と使われており、小さなお子さんも使われていて、大変良い施設であるとお言葉をいただきました。

また、君津市からの視察もあり、とても明るい雰囲気、利用しやすいというお言葉もいただきました。

【市民活動支援課：大岩主幹】

直営の時は、南房総市から視察がありました。また、県の環境生活部と連携し、講習会等開催してもらいました。参加者を募集するために、このみらいラボで開催するという情報が発信できたので、当施設を周知するきっかけにもなりました。

【川口委員】

高齢者サロン、「ふまねっと」などの活動をこのみらいラボで行わせてもらい感謝しています。また、ここの職員の方々も非常に行動力があり、大変感心しております。

【湯谷委員】

自主事業で、市民活動団体との共催は今年度は2件あり、大変良い試みだと思えます。今後も、このような共催の団体を増やす取り組みは行っていくつもりですか。

【三幸株式会社：江澤センター長】

自主事業については、市民の皆さんに、このみらいラボを知ってもらい、団体と団体とをつなぐ市民活動の拠点として、活用してもらいたいという思いがあります。

【湯谷委員】

登録団体が単独で事業を行うのは色々と厳しい部分もあるが、このように指定管理者と共催で事業を行うとやりやすいと思うので、このまま継続していただきたい。

【白石会長】

続きまして、議案3の平成30年度財政援助団体等監査の指摘事項へ、議題を移らせていただきます。

それでは、事務局の説明をお願いします。

【市民活動支援課：大岩主幹】

—資料3「平成30年度財政援助団体等監査の指摘事項について」のとおり報告

【白石会長】

この件について、ご質問はありますか。

【湯谷委員】

指摘事項2の審査基準についてですが、厳しすぎるのも良くないと思うが、市民活動団体の審査についてどういったものを考えていますか。

【市民活動支援課：大岩主幹】

湯谷委員の仰るとおり、審査基準のあり方は、これから精査していく上で、どの様に基準を置くのかが一番のキーポイントだと考えています。しかし、一方で、単に市民活動を行っている団体というだけではその範囲は限りなく広がってしまいます。団体にとって、当施設が利用しやすく、また、団体の活動を妨げない様な審査基準を設けることが一番だと考えておりますが、その線引きの判断について、改めて委員の皆様からご意見を頂戴したいと考えております。

【白石会長】

審査基準について、案ができれば、是非次回の運営協議会に出していただき、委員の皆さんのご意見をいただけたらと思っておりますので、宜しくお願いします。

【白石会長】

それでは、「アンケート項目の追加及び事務局案について」移らせていただきます。

内容の説明についてお願いします。

【市民活動支援課：北見主任主事】

— 資料4「アンケート項目」に沿って説明

【白石会長】

今、説明をいただきましたが、ご意見・ご質問ありましたら、お願いします。

【長谷川委員】

両アンケートの最後に「～ご協力ありがとうございました～」の文言を入れてはどうでしょうか。

アンケートの回収先についても記載があった方が良いでしょう。

登録団体向けアンケートについて、Q7の活動目的ですが、複数に渡った目的も考えられるので、複数回答にしてはどうでしょうか。

協働のまちづくりアンケートの最後に自由回答記述欄を設けた方が良いでしょう。Q1に関連し、協働のまちづくり活動支援事業について、「知らない」という回答もあるが、その方には、Q3以降の回答は不要となるので、その旨、記載しておいた方が良いでしょう。

【川口委員】

登録団体向けアンケートについて、Q22について、市民活動団体が使用したい備品などについては、例えば、君津地方視聴覚教材センターからプロジェクターやスクリーン等を借りてきたりしています。必要であれば、そうした施設を活用して、備品を調達できますので、みらいラボで新たに設置しなくても良いのではないかと思います。また、必要な備品は、団体によって様々であり、要望が非常に多くなってしまいうことも想定されるため、対応が難しいのではないかと思います。

【白石会長】

この備品については、あくまで希望なので、聞いても良いのではないかと思います。また、あまりお金がかからない備品も考えられます。

【湯谷委員】

1つのアンケートにつき、4ページくらいが妥当かと思います。A4 サイズ4ページならば、A3 サイズの用紙1枚にすることもでき、丁度良いと思います。

また、アンケートの順番を整理し、目的ごとに分けた方が良いと思います。

制度について現在の状況を聞きたいということであれば、Q3～Q6に加えて、Q17、Q18、Q22、Q23 あたりにまとめるとか、また、交流の事業について参考に聞きたいということであれば、Q8～Q12 あたりにまとめるのが良いと思います。

Q13～Q16 あたりのところは、ちょっと他の質問と比べると異質に感じました。Q19～Q21 も異質に感じました。

ある程度の目的（ジャンル）を絞って聞いてみてはどうでしょうか。

また、ジャンルがバラバラに感じるので、順番も整理してみてはどうでしょうか。

【長谷川委員】

この Q24～Q25 のメールアドレスやホームページを教えてくださいというのは、登録団体のメールアドレス等を市や指定管理者の方で把握しきれていないという現状があるからでしょうか。

【三幸株式会社：江澤センター長】

メールアドレス等把握しきれていないため、今回のアンケートで追加したいと考えております。

【白石会長】

登録の申込みをする時に、メールアドレス等聞いていないのですか。

【三幸株式会社：江澤センター長】

確認はしておりますが、申請時にメールアドレスをもっていない団体もありましたので、改めて、伺いたいと思っております。

【土居市民部長】

全ての登録団体とコンタクトは取れますか。

【三幸株式会社：江澤センター長】

はい。取れます。連絡先と住所は、申請時に記載されておりますので、電話・郵便でのコンタクトは取れます。

【土居市民部長】

では、全く連絡が取れないというわけではないので、設問として入れなくても良いと考えます。

また、質問事項をまとめ、回答しやすいものにするため、Q19～Q21、Q24～Q25は、今回は削除が良いのではないのでしょうか。

【白石会長】

この点について、いかがでしょうか。

— 一同了承 —

【市民活動支援課：大岩主幹】

今回ご指摘いただいたアンケートの箇所について、再度、修正させていただき、実施させていただきます。

【白石会長】

協働のまちづくりアンケートについて、協働のまちづくり活動支援事業を知らない方にとっては、このアンケートを答える箇所が少なくなってしまうので、制度の説明を詳しく載せておくことが必要ではないかと思えます。

【市民活動支援課：大岩主幹】

この点につきましては、アンケートの際、制度についての説明が書かれてあるチラシ等を入れて対応させていただきます。

【加納委員】

アンケートも大事だけでも、そもそも市として、市民活動団体に対する支援をどのように考えているのか。

たとえば、助成金制度に対しての応募方法を教える講座を実施したり、支援事業に対しての周知活動を行うことも場合によっては必要であると考えられますが、具体的に、何を支援するのかという支援活動の範囲を明確にすることや、市民活動団体が継続して運営できるよう育成を図ることも必要ではないかと思う。

その支援活動の範囲がはっきりしない中で、アンケートを実施しても効果的ではないと思います。

【市民活動支援課：大岩主幹】

市民活動に対して、どの範囲まで支援が必要なのかという判断は非常に難しく、当然、自立できる団体については、全く問題はないが、自立するまでには至らない団体に対しては、支援が必要だと思っています。

そのために、条例や要綱を制定し、支援を行ってきました。今回の調査の目的としては、現行の制度も6年が経過したので、現状を把握する上で調査を実施したいと考えています。

【白石会長】

アンケートの内容としては、色々と思ってもあるかもしれませんが、今回は事務局から提示された内容に今回いただいた意見等を盛り込んでいただき、実施してもらった上で集計結果を取りまとめていただき、次回の運営協議会で報告していただきたい。

【市民活動支援課：石井課長】

それでは、以上をもちまして、平成30年度第1回運営協議会を終了いたします。ありがとうございました。